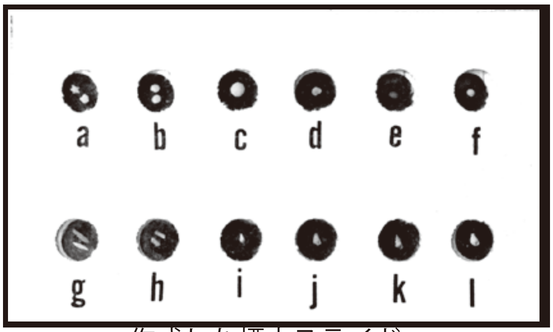
出前博物館報告

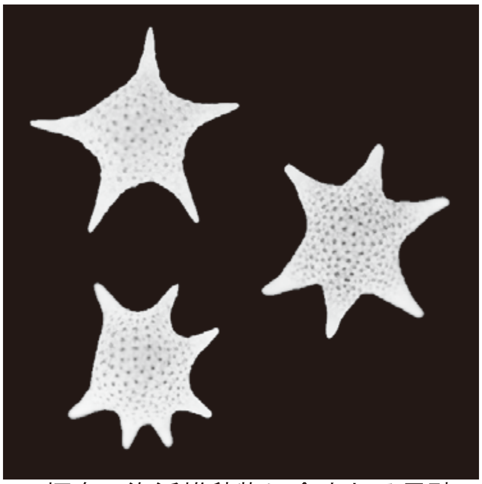
浜松科学館「星砂の宝石箱」

山田晋之介

星砂探しに夢中の子供たち



作成した標本スライド



石垣島の海浜堆積物に含まれる星砂

昨年 12 月 15 日、16 日の 2 日間、浜松市の浜松科学館にて開催された「第 17 回おや！なぜ？横丁〜サイエンスアベニュー〜」に参加しました。このイベントは様々な団体の出展ブースで、子供達が科学に関連した体験実習を行います。今回我々は「星砂の宝石箱」というタイトルで出展し、海浜の微小生物の標本スライドを作成する実習を行いました。実習は、石垣島の海浜堆積物から星砂を始めとする微小生物の遺骸を抽出・同定してもらい、その標本をスライドに収めるという内容です。作成した標本スライドと検鏡した砂は、参加者全員に差し上げました。

星砂の名で知られる *Baculogypsina* 属の有孔虫は、珊瑚礁の広がる南の島々に分布し、その美しい形ゆえに土産物としても人々に親しまれています。今回用いた試料には、絵に描かれた太陽のような形の“太陽の砂”や、土星のような模様を持つ“土星の砂”、平べったい円形の“銭石”といった有孔虫も含まれています。他にも、軟質サンゴの骨片である“ウミトサカ”、硬質サンゴの骨片、ウニのトゲ、微小貝、フジツボなど、色々な生き物の残した鉱物を発見することができます。実習に参加した子供達は、みんな夢中になって星砂などを探し、時間ギリギリまで標本をスライドに入れていました。意外だったのは“星砂”のような綺麗で見映えのする物だけが人気を集めたわけではなく、地味な色合いの“土星の砂”や、さほど珍しくない“ウニのトゲ”を一生懸命に探す子供が多かったことです。試料中に数が少なく、なかなか見つからない“銭石”を欲しがる子供が多かったのも印象に残っています。

実習は前もって整理券を配布する形で 1 回につき 4 人、全 20 回行いました。イベントが始まると整理券は瞬く間に配られ、開始 30 分後にはその日の予約は殆ど埋まってしまいました。整理券をもらえずに残念がる子供達も大勢居ました。海浜環境と砂浜地形に関する資料と解説も準備していたのですが、30 分弱の実習時間では省かざるを得なかったことが心残りですが、このイベントを通じて多くの参加者が、普段あまり気に留めない微小生物に興味を抱いてくれたことを嬉しく思います。